

聖徒の道



10月号
1957

末日聖徒イエス・キリスト教会

目次

聖徒の道

一九五七年十月号

「伝道部長メッセージ」	一頁	室蘭支部たより	十一
サタンに打ち勝つて王国の喜びを得ん		八月の山形支部	十一
ポールC・アンドラス伝道部長		東京北支部	十一
内に潜む敵に心せよ		東京南支部の活動	十一
デビット・オー・マツケイ大管長	三	大会とキャンプ	十二
「ニュース欄」		金沢支部たより	十三
新訳「モルモン経」に就て	五	中央支部の日曜学校理想に一步前進	十三
佐藤 龍 猪			
地方部大会スケジュール	六		
副伝道部長任命さる	七	「信仰と証詞」	
「伝道本部より」		幸せを感謝する	十四
転任・任命・解任・バプテスマ	七	(東京中央支部)	
堀内京子		祈り	十四
「福音のたより」(各支部の報告)		大管長の言葉	
今年の旭川	八	「神殿の事業について」	十五
新潟大会	九	「支部訪問記」(小樽支部の巻)	十六
岡町支部の動き	十	モルモン経物語(一)エマ・マー・ピータソン著	十八

メツセージ

サタンに打ち勝つて

王国の喜びを得ん

伝道部長 ポール シー アンドラス

主は、当伝道部の宣教師の努力と会員たちの努力を本当にすばらしい方法で祝福しつづけておいて下さいます。本年八月中には五十五名の改宗者がバプテスマを受けて、本年一月から八月までの八箇月間に改宗してバプテスマを受けた人の数は総数三百二十八名となりました。今月号の聖徒の道が印刷される 時に（九月末日）は、本年の始めからそれまでに合計三百九十四名の改宗者がバプテスマを受けたこととなります。私にとつては、当教会にこれほど多くの人々が今加わりつつあるということは、主が来る数年の中に日本に於てまた全極東を通じて当教会を強固に樹立するためにその御手をお着けになつたしるしであります。

旧い教会員諸氏に代り、私はこの機会を利用して当教会の新会員各位の一人一人にのこらず申し上げたい。すなわち、私たちは皆様が神の本当の救いの計画を認めて、自らの生活をイエスキリストの真の救いに一致させ始めておいて下さることを非常に喜んでおります。当伝道部の長として私は皆様に約束致します。すなわちもしも皆様が当教会の救いを毎日の生活に実行する努力を忠実につづけるならば、現世に於ても来世に於ても皆様は絶えず大きな喜びを受けるにちがひありません。

特に新たに会員となる方へ

今月私のメツセージは教会員全部にあてたものでありますが、特に新しく会員になられた方々に申し上げます。

過去の経歴は、あなたがたの中の何人々も時が経つと教会の中で不活潑となりついには全く教会を去つてしまふことを示しております。当教会には現在千五百名以上の会員がおります。そしてこれらの人々の大多数は今誠命を忠実に守つており、各自の支部教会に於て活潑に働いております。しかしこれらの人々の中にはかなりの人々が今や不活潑であつてもはや教会の救いを実行していないのであります。

何故これらの人々が不活潑となり、また何故これらの人々がもはや神の職命を今は守つていないのでしょうか。私は教会の会員のある人々が次のように言つてゐるのを聞いたことがあります。すなわち、今忠実でない会員たちは本當に改宗したのではない。またバプテスマを受けるのが早すぎたのであると。また近ごろ耳にしたところによると、新しい改宗者獲得計画を指導されてゐる比較的古い会員たちの中には、多数の人々が本當に改宗しない前にバプテスマを受けてゐるという心配がいくらかある由であります。私一面の考えとしては、新しく改宗した方々はほとんど例外なく福音を充分に理解しており、また福音が真実であるという証しをもつてゐると思つてゐます。さらにまた、新しく改宗した方々は救いを毎日の生活に実行してゐます。新しい改宗者獲得計画に關聯して、宣教師たちは何人にバプテスマを授けるに當つても、その人が第一に教会の救いを理解し、第二に教会の救いを受け入れ、第三に教会の救いを実行するまではバプテスマを授けるなと、くり返し指図を受けております。私は、宣教師たちがほとんど例外なく以上の指図に従つてゐることを信じております。また新しい改宗者の方々の大多数はこれからもつづけて忠実且つ誠実であるにちがひないと信じます。しかしながら、中には教会を離れて行く人々がでてきます。何故でしょうか。

サタンの仕業に警戒されたい
この世の中に、サタンは實際に存在して大きな力を有つてゐます。

サタンは神の眞の教会に對して戦うために現に全力を用いておりま
す。私一個の考えでありますが、私は次のように信じています。す
なわち、バプテスマを受けて当教会に加入した人々は、ほとんど例
外なく充分に改宗して、バプテスマを受けたその時にはこの教会が
眞の教会であるという個人的の証しをもつていたのであります。と
ころが、サタンがこれらの人々の中の多くの人々の心を暗くするこ
と、だますことに成功したので、これらの人々はその証しを失ひ今
や不活潑不忠実になつていたのであると。当教会の会員として、私
たちは誰でもみなサタンが現在私たちの心を暗ませ、私たちの証し
を私たちから盗んで行くために努力をしている。ということを眞実
悟らなくてはなりません。また私たちは、サタンの仕業は、その犠
牲となる者が義の道から離れて行く原因がサタンにあるということ
さえもぎせい者自身氣付ほど功妙至極であるということをも眞実に悟
らなくてはなりません。

現に不活潑である会員たちは、もしも人に聞かれたとき、自分た
ちの不活潑であることにサタンは何らの關係もないとおそらく否定
するでしようが本当はサタンの仕業であります。サタンのやり方は
こういう風であります。

種蒔く者のたとえに就て

種蒔く者のたとえ話とその説き明しの中で、救い主は会員たちが
一度教会に加入した後不活潑となり不忠実となる原因が何である
かはつきりと述べておいでになります。そのたとえ話はマタイ伝第
十三章三節―九節にあつて次のように誌してあります。

「見よ、種蒔く者まかんとて出づ。まぐ時道のかたわらに落ちし
種あり、鳥來りてついばむ。土うすき石地に落ちし種あり土深から
ぬによりて速にもえ出でたれど、日の昇りし時やけて根なき故に
枯る。いばらの地に落ちし種あり、いばら育ちてこれを塞ぐ。良
き地に落ちし種あり、あるいは百倍、あるいは六十倍、あるいは
三十倍の実を結べり。耳ある者は聞くべし」。

救い主が解き明したもうたこのたとえ話の説明はマタイ伝第十三
章十八―廿三節にあつて次の通りであります。

「さらば汝ら種蒔く者のたとえを聞け。誰にても天國の言葉をき
さて悟らぬときは、惡しき者來りてその心にまかれたるものをうば
う。道のかたわらにまかれしはかかる人なり。石地にまかれしと
は御言葉をききて、直ちに喜びを受くれども、己れに根なければ
暫し耐うるのみにて、御言葉のために艱難あるいは迫害起るとき
は、直ちにつまずくものなり。いばらの中にまかれしとは御言葉
を聞けど世の心づかいと宝の感いとに御言葉を塞がれて実らぬも
のなり。良き地にまかれしとは、御言葉をききて悟り、実を結び
てあるいは百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にいたるもの
なり」と。

永遠の生命に心を寄せよ

この第十九節は、人々が福音を理解しないわけはサタンが「そ
の心にまかれたるものをうばう」とはつきり私たちに告げています。
このような人々はバプテスマを受けて教会に入りません。第廿一
と第廿二節には、人々の中には喜んで福音を受ける者もあるが、艱
難や迫害が起るとこれらの人々はつまずいて離れてしまふと言つて
あります。

喜んで福音を受ける人々は、おそらくバプテスマを受けるでしよ
うが、教会に加入したと言ふ理由でその親類か友人か商売上の仲間
の中の誰かがサタンによつて迫害し始めると、これらの人々はこれ
らの迫害に耐えるだけの力がないので、迫害をのがれるために教会
を去つて行きます。第廿二節の中では、御言葉を受けるが実を結ば
なくなるほど世の心づかいと宝のまどいによつて塞がれる人々就
てまなびます。富とこの世の事物とを忙しく追求しているの、教
会へ出席する時間がない、または誠命を実行する時間がないとい
うわけで、現在不活潑な会員の中のどれほど多くが不活潑になつて
いることでしょうか。

これらの人々は金をもうけることに、また社交的活動に忙しいので、永遠の生命に心を寄せるひまがないのであります。このような人々は明らかにサタンによつて盲目になつております。しかしながら、第廿三節に述べてある人々は此世にも来世にも喜びを受ける人々であります。これらの人々が艱難と迫害を受けることは本当でありませんが、これによつてこれらの人々はつまずきません。これらの人々がこの世の心ずかいに打ち勝ち教会の活動に多くの時間を費やさなくてはならないことは本当であります。主はそうする代りにこれらの人々を榮えさせたもうにちがいありません。これらの人々はその忠実な行いによつて多くの果実を結ぶにちがいありません。これらの人々とその家族とそのほか多くの人々は、共に神の王国に於て永遠の喜びを受けるにちがいありません。

私は、本伝道部に於けるこの教会のあらゆる会員が、一人一人みなサタンの力に打ち勝つように、またあなたたちの一人一人が豊に実を結んで、永遠より永遠に神の王国で幸福ならんことを心から祈りいたします。

内に潜む敵に心せよ

大管長 デビッド・オー・マツケイ

「今より我は世に居らず、彼らは世に居り、我は汝にゆく。聖なる父よ、我に賜いたる汝の御名の中に彼らを守りたまえ。これ我等のごとく、彼らの一つとならんためなり。我かれらの為のみならず、その言によりて我を信する者のためにも願う。これ皆一つとならん為なり。父よ、なんじ我に在し、我なんじに居ることく、彼らも我らに居らん為なり、是なんじの我に遣わし給ひしことを世の信ぜん為なり」(ヨハネ伝十七章十一節、二十節、二十一節) 読んですぐわかる様に、私は、今人々の間で捧げられた最も崇高な祈りの一つをここに引用した。これは仲裁の祈りであり、この祈りを通して、イエスは従い来る多くの群衆の間で「統一性」という

ことを最も強調し結うたのである。

統一性及びその同義語である調和、誠意、平和、一致、相互理解等は、人の心の絶えず悪いあこがれている状態を云い表しているものであつて、これらの言葉の反義語は不一致、論争、闘争、混乱などである。

確固たる基礎

私は、統一性及び調和ということが欠けている家族程好ましくない家庭は無いと考えている。これに反し、統一性、相互理解、及び愛の存する家庭は地上にある天国の如きものである。私は諸君のすべてが統一性、相互理解、愛の存する家庭が如何に幸福な家族であるかを証明し得る人たちであることを知つてゐる。私は青年の頃、父と母との間に一度も意見の相違がなく、又兄弟姉妹との間にも常に誠意と相互の理解が存していたという記憶を思い浮べると、極めて感謝と謙遜な気持ちになる。実に、統一性、調和、誠意は、あらゆるすべての家庭に於て、培われ、維持されねばならぬ美徳である。支部やワード部に於て、この原理——統一性——の存すること程靈性と進歩を勝ち得る助けとなる美徳はないであらう。しつと、陰口、悪口が信頼、信用、自制、統一及び調和にとつて代る様になると、教会内の組織の進歩は完全にとだえてしまふのである。

不一致の種を播く者

この日本に於てさへも、完全に政府の憲法制度を破壊しようとはしないが、かげで、不正手段により、それを毀損し、且つ弱めようとして、人々の間に不一致及び論争の種を播かんとしている人がいる。

時をみて、彼等は危険や戦争に関する適切な警告を発している。敵軍の自国侵入よりもつと恐ろしいことがある。それは自国内に於ける不忠な団体及び組合等のはかりめぐらす非愛国的にして、且つ秘密裡の計画である。誰れが敵であり、敵が一体どこにかくれているかを知つてゐる政府は、これらの敵を攻撃し、絶滅させるため

に充分なる準備を備えるであらうが、しかし自国の枠内に存し、政府にいつわつて忠誠を誓い、同時に政府に対し謀反を起さんと企てている敵の秘密裡にして、治安防衛的な計画は極めて処し難いのである。

内密の活割

内的崩壊は外部的圧迫よりもつと危険にして、宿命的なものであることを知らねばならない。例えば、我々は恐ろしい雷、嵐、きびしい寒さや暑さ、洪水、その他極端にひどい自然現象より、充分に自分の身を保護することが出来るが、有害な細菌が肉体の中に入り込んだり、又有毒物が重要な器官を損う時には、悲鳴をあげ助けを求めるのである。無智、誤り、悪意ある敵はすべて教会の発展のさまたげとなるもので、人のあら探し屋、横着者、誠命を破る者又は教会や定員会中であれ廻る墮落組等のもたらすものである。

この様な人は政府の内部に存する敵でもあり、設立された政府の制度をおびやかす時に、最も恐ろしいものとなるのである。

末日聖徒と憲法

末日聖徒は主の建設し給うた国の憲法に反対する秘密結社や団体には全く無関係である。又この憲法は公正にして、望む原則に従い、人の権利と保護のために常に維持されねばならぬものなのである。

「すなわち、わが彼らに制定許したる、又且つ神聖なる原則によりてあらゆる人々の権利と保護とを守る為に維持すべき人民の律法と憲法とに従いて汝らの上に権威を持つ者に切に願ひ、かくして八ことごとくわれより与えられたる良心に従ひ、未來に關する教義と原理に適う行を為し、審判の日に至りて自己の罪を負うべきなり。故に、何人も相互に束縛するは正しきに非ず。われ共に此目的のためにわが挙げたる賢き人々の手によりて此地の憲法を制定せしめ、流血によりてこの地を購えり」。

(教義と聖約第百一章 七七節―八十節)

勿論、政府にも改正されねばならぬ誤りはある。又明らかに不正であり、不適切であると考えられるものもある。諸君が不正な、且つ不適切なものを变えたいと思ふ時には、選挙日に投票に出かけ、公衆の職務につくために誰れが適任であるかということを発表し得る諸君の特権を、主に感謝しなさい。

まず神を崇拜する者となり、ついで日本の憲法を支持し、維持すること程、教会の統一に役立つものはないと知るべきである。

統一性に対する祈り

先に引用した統一性を求めて祈り給うた主の仲裁の祈りの重要性が家庭、ワード部、ステーク部の人達により認識され、民主主義の基本的原則を支持するに役立つものとなることを私は祈っている。神はこの教会を常に導き給う。特に神の計画に従ひ、この地上に神の王国を建設せんために与えられた神権を導き給うのである。

英智とサタン

ジョセフ F スミス大管長

「キリストは、天父より英智を受けつゝいた。知識と純粋なる英智との間には相違点がある。サタンはわれわれよりはるかに多くの知識を持つてゐるが、英智を持たない。英智を持つとすれば、光明と真理の原則に従順さを示したことだろう。私は、知識を持ち、諸君同様に福音を理解し、且つ明哲な頭脳を有してはいるけれども純粋なる英智を得るに欠くべからざる資格に欠けている人たちを知っている。純粋なる英智は、知識を含まねばかりでなく、その知識を適切に応用する力をも有するのである。」

(一九一三年オグデン、タバナクルの説教より)

ニュース欄

新約モルモン経に就て（承前）

佐藤 龍猪

第四、旧約モルモン経が始めて印刷されたのは明治四十二年十月七日のこと、今を去ること約四十七年前であります。この半世紀ほど前の日本ではまだまだ漢字の使用が盛んに行われていて、各学校でも漢文科は重要な学科であり、高等学校（旧制）の入学試験でも英数国漢の四科目は必須科目でありました。つまり、その当時の日本人の教養の尺度として漢学の素養ということが一つの要素と考えられていて、私なども小学校へ入らない前から漢学の先生の塾え通わせられて、孝経、大學、中庸、論語、書経、詩経、礼記などの素読を学習させられました。素読（そどく）というのは字の意味にはおかまいなくたゞ字の読み方だけをお経を読むように読みあけてゆくことで、「シンタイハツブコレヲフボニウクアエテキシヨ―セザルワコーノハジメナリ」などと、たゞ暗誦したものであります。この塾で何万何千という漢字の読み方を習ったわけですが、今はその大部分を忘れてしまいました。実際は、漢学の専門家でないかぎり、私たちの社会生活に於て漢字を多く

知つてゐる必要がなくなつたからであります。漢字には便利な点も多くあり、また何千年という古い歴史上の背景もありますが、今日の社会生活の発展は漢字の制限、進んでは漢字の全廃さえも要求しております。

そういうわけで、五十年近くの前には読者に漢学の素養を期待しあるいは要求をさへしていた、むづかしい漢字をたくさん使つた文章は今日もはやこれを漢字の少い、やさしい文章に易えないと多くの読者を得ることが困難になつてきたのであります。

はぶいた難解な漢字

始めに述べたように旧訳モルモン経は五十年近く前に印刷発行されたのでありますから、むづかしい漢字がたくさん使つてあります。そしてこれがまた立派な文章であることの一つの資格であつたわけでありました。しかし、できるだけ多くの読者に読まれて理解してもらふためには、現在不必要と思はれる漢字をはぶいて「かな」にするか、またはもつとやさしい漢字にかえなくてはなりません。そのむづかしい漢字の中には、邦文タイプライターの活字の中に見出されないために、次の表に出すことのできなかつた字がたくさんありますが、できるだけかかれておきました。次の表は旧訳モルモン経からはぶいた漢字の表であります。はぶいた漢字の総字数は前にもちよつと述べておきましたが総計四万一千字です。

(ア) 仁恕(あわれみ) 惻み(あわれみ)

足探る(あさる) 概略(あらまし)

所有(あらゆる) 豈(あに) 宛も(あたかも)

幾斗(いかばかり) 甚く(いたく)

(イ) 謂いて(いいて) 言做す(いひなす)

謂(いわれ) 所謂(いわゆる)

弥(いよいよ) 争で(いかで)

聊か(いささか) 一瞥(いちべつ)

無花果(いちじく)

弥更(いやすら) 辭む(いなむ)

口碑(いいつたえ) 愈(いよいよ)

(ウ) 批つ(うつ) 呻吟(うめく) 患

(うれい) 博つ(うつ) 諾う(うべなう) 窺う(うかがう) 撲つ

(うつ) 堆く(うすたかく) 拍つ

(うつ) 毆つ(うつ) 軋(うたた

(オ) 聞く(おお) 大饗(おおるまい)

威嚇(おどかし) 慄く(おののく) 戰慄(おののく) 畢る(おわる) 夥しく(おびただしく) 概む(おおむね) 稚児(おさなこ) 飼す(おろす) 熾(おき)

(カ) 捷つ(かつ) 隱匿(かくまう) 哉

(かな) 肯んず(がえんず) 匿れ

(かくれ) 曾て(かつて) 託言(かこちこと) 斯斗(かばかり) 藉

(かる) 抱らず(かかわらず)

慮す(かます)

(かんべん) 獵る(かる) 懸け(かけ)

(キ) 截る(きる) 汲々(きゆうきゆう)

(ク) 愚弄(ぐろう) 件の(くだんの)

(ケ) 瀆す(けがす)

(コ) 尽く(ことごとく) 冀う(こいねかう) 竝に(ここに) 故に(ことさら)

(サ) 潜々(さめざめ) 宛然(さながら) 捌く(さばく) 曝す(さらす) 猷(ささぐ) 儲(さて) 蠱に(さきに) 擬(さて) 碍ぐ(さまたぐ) 私語(ささやき) 雄然(さながら) 行迷(さまよい)

(シ) 遵い(したがひ) 加之(しかのみならず) 所詮(しよせん) 循う(したかう) 頻に(しきりに) 微証(しるし)

(ス) 都て(すべて) 頗る(すこぶる) 透す(すかす)

(セ) 詮方なく(せんかたなく) 通り(せまり) 聖班(せいはん) 蓋(そは) 戦ぐ(そよぐ)

(タ) 諭える(たとえる) 奮に(ただに) 飯令(たとい) 闘う(たたかう) 斃れ(たおれ) 縦い(たとい) 慥に(たしかに) 忽ち(たちまち) 係る(たずさわる)

(ツ) 約め(つずめ) 熟ら(つらつら) 惹く(つつがなく) 擾む(つかむ)

(テ) 手疵(てきず)

(ト) 兎角(とかく) 禁め(とどめ) 轟く(とどろく) 星霜(としつき) 遏む(とどむ) 到底(とうてい) 阻む(とどむ)

(ナ) 尚(なお) 猶(なお) 擬(なぞらう) 莫れ(なかれ) 微りせば(なかりせば) 擲つ(なげうつ) 傲い(ならい) 秋波(ながしめ) 等閑(なおざり) 斗(ながら) 訛る(なまる) 蔑(ないがしろ) 抛つ(なげうつ) 准え(なぞらえ)

(ニ) 扭う(になう)

(ノ) 遁る(のがる)

(ハ) 譎る(はかる) 将又(はたまた) 憚る(はばかり) 携々しく(はかばかし) 齒軌(はぎしり) 諂る(はかる) 嚆矢(はじめ) 攘う(はらう) 駭撃(ばくげき)

(ヒ) 只管(ひたすら) 畢竟(ひつきよう) 均しく(ひとしく) 偏に(ひとえに)

(フ) 跋(ふむ) 禦ぐ(ふせぐ)

(ヘ) 隔て(へだて)

(ホ) 略(ほげ) 恣に(ほしいままに) 統に(ほしいままに) 称め揚す(ほめそやす)

(マ) 囁い(まとい) 儘(まま) 随々(まにまに)

まにまに) 洵に(まことに) 交睫(まどろむ) 当に(まさに)

(ミ) 御霊(みたま) 頗ちて(みちて) 擾す(みだす) 乱る(みだる) 路導(みちしるべ) 洞見(みとおし)

滑す(みだす) 紊る(みだる)

(ム) 寧う(むしろ) 無瑕(むきず)

(モ) 若し(もし) 悻る(もとる) 霽む(もとむ) 儲く(もうく) 尤も(もつとも)

(ヤ) 舍めず(やめず) 臆て(やがて) 頓て(やがて) 休めず(やめず)

(ユ) 容す(ゆるす)

(ヨ) 捩りて(よりて) 誦む(よむ) 託りて(よりて)

(ロ) 妒(ろ) 蠟燭(ろうそく)

以上は実際にはふいた漢字の一部分にすぎません。漢字の本来であるおとなりの国が、今漢字制限や簡易化を手ぬるいとしてひととびにローマ字普及に乗り出した今日、このままでは二十年さきに漢字を使っている国は世界中に日本ただ一国になることを考えるとこの次は「カタカナヨコガキ」の時代次にローマ字の時代になることが明かであります。

地方部大会スケジュール

各地方部の秋期大会はシーズンに入り各地で開催されるが、九月十五日のオキナワを皮切りに左の通りの日程で今年中は行われる事

になつた。

北海道地方部 九月二十九日

於 札幌市

中央地方部 十月六日

於 東京千駄ヶ谷

韓国地方

於 京城市

北地方部

十月二十七日

南中央地方部

於 仙台市

南地方部

十一月十七日

於 大阪市

十一月二十四日

於 広島市

副伝道部長任命さる

長年副伝道部長の任にいたランドバ
イク長老及びジョンズ長老の帰国にともない
副伝道部長は欠員となつていたが、九月二十
一日、新に第一副伝道部長としてテオドル・
ウエルチ長老、第二副伝道部長にはノーマン
シヤムウェイ長老がそれぞれ任命され伝道部
長のよりよき伝道の助け手として働く事にな
つた。

ウエルチ長老は一九五四年九月来日、カル
フォルニアロスアンジェルズ出身、広島、横浜
支部伝道、現在に至るまで中央地方部長の任
についていた人も知る音楽一家の出身の音楽
家
シヤムウェイ長老は、アリゾナ州フィニク

ス出身、一九五四年十一月来日、最初に名古屋、次に鳴海そして仙台に伝道したが、一九五六年五月伝道部の補助組織の監督となり現在に至つた。

伝道本部より

転任

氏名	新任地	旧任地
C. ロナルド・ヴァンルーベン	広島	東京東
ラリー・シヤムウェイ	本部	東京東
L. ジミー・フォックス	仙台	東京南
ウィルフオード B. アステル	山形	山形
フランクリン S. ブラック	福岡	山形
ゲリー・クランプ	本部	仙台
H. ローエル・アシュマン	邦覇	本部
ジョン・リード・アダムス	フテマ	本部
デビッド A. ストリート	京城	本部
ヴァール・テイラー	京城	本部

任命

ラリー・シヤムウェイ長老は伝道部補助組織監督に任命されました。

地方部長、支部長

各地の地方部長および支部長は次の如く任命されました。

氏名	地方部長	支部長
エヴァン A. ラーセン	南地方部長	
リチャード M. オースティン	仙台支部長	
ロバート M. グットマン	高崎支部長	
ウィルス・ライト	松本支部長	

高橋	林	尾木	片山	和田	山田	長井	日下	小室	吉田	的場	藤田	佐藤	佐藤	栗原	滝沢	庄司	与那	村岡	島崎	石川
愛子	秀子	千恵	淳子	弘子	喜子	芳子	幸子	梅子	幸子	梅子	千鶴子	千鶴子	千鶴子	あき子	とみ子	建郎	義雄	とも子	道子	善次郎
山形支部	阿倍支部	新潟支部	岡崎支部	岡崎支部	岡崎支部	岡崎支部	柳井支部	東京支部	東京支部	東京支部	甲府支部	札幌支部	仙台支部	仙台支部	岡山支部	山形支部	山形支部	沖繩支部	小樽支部	旭川支部

アルヴィン・ジャック
ゲイリー・ライト
ニューエル・ターナー
邦覇支部長
岡山支部長
前橋支部長

ゲリー・クランプ長老
ジエームス J. ショーンズ長老

解任

佐藤	木島	馬場	佐藤	齊藤	長島	雨宮	雨宮	西出	曾根	山田	小松	徳原	山本	寺戸	宮坂	下条	西条	田沼	西条	峯田	小川	当山	島田	高山	山本	馬場	片岡	伊藤
菊子	とし子	雅子	一三子	美雄	淑江	昭子	好子	好子	清子	春美	英輔	節子	佳弘	徳久	宗男	誠司	こう子	きよう一	好子	幸子	清子	綾子	浜子	久子	孝也	雅夫	のり子	
東京南支部	東京中央支部	東京中央支部	東京中央支部	東京中央支部	前橋支部	甲府支部	甲府支部	小松支部	岡本支部	松本支部	柳井支部	広島支部	横濱支部	横濱支部	横濱支部	横濱支部	横濱支部	横濱支部	山形支部	沖繩支部	沖繩支部	東京北支部	横濱支部	甲府支部	新潟支部	東京中央支部	東京中央支部	

福音のたより

各支部の報告

今年の旭川支部

滅法に早い秋で肌寒い毎日が続いて居る当地ですが、全てが豊かな収穫の秋を期待出来る日々を会員一同感謝しつつ送つて居ります。活潑な諸行事を催して多大な建築資金を獲得出来ました事を心から感謝して居ります。

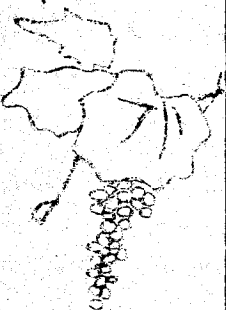
四月の行事(二十九日)すばらしい食事会で又参会した人々は熱心な会員に接して敬服して居りました。(三十日)待望の土地を市内新町三条二丁目に講入する事が出来、会員

来れ、来れすに来れ。容易に迫つてきてゐなれたちを縛りそして亡ぼしてしまふ一切の罪を捨てよ。来れ、そして進んで自分の罪を悔い改めることと、進んで神の命令を守る誓約を神と結ぶこととをあなたたちの神に示し今日バプテスマの水の中に入つてまことにこの心があることを神に証明せよ。誰であつても本当にこの通り行い、これからさき神の命令を守る者は、私の心の中に証をする聖い「みたま」の証詞によつて「あなたたちはこの後永遠の生命を受ける」と私が言つたことをあとから思い起すであらう。

一同いよいよ熱心に活動。

五月の行事(十九日) 福原兄弟が支部長に聖任さる。

六月の行事(五・六日) 祭典につき公園に売店を出しました。扶協会々員の徹夜の奮斗により「稻荷ずし」「サンドイッチ」「ラーメン」「しるこ」等を沢山売ることが出来ました。(二十九日) 地方部長栄転のパック長老後任宣教師として新潟より前沢長老を迎え、強い証詞を持つた宣教師と一緒に一同益々張



切つて活動して居ります。(十六日)荒川兄弟が誕生。地方部長として札幌に行くバック長老の送別会を催し特に建築資金のために熱心に御指導下さつた同長老に求道者共々別れを惜しみました。

七月の行事(十八日)MIA主催開拓者の夕、清流忠別川畔で参加者二十一名。(二十二日)上川神社祭につき建築資金のために売店を出しました。何時もながら前夜からの扶助協会の努力で素晴らしい人気を得ました。

八月の行事(四日)島崎道子かず子の二姉妹が誕生(十七日)建築資金のため市民会館で「ダンスの夕」を催す。参会者約二五〇名(二十五日)バック地方部長キング長老を迎えて前沢、ワーカー長老福原支部長等により有意義な話を聞き、「神の王国」について会員一同の強い証詞を得ることが出来た。神権会扶助協会で家庭訪問を実施。

九月の行事(八日)支部新組織を次の様に望任しました。

日曜学校会長前沢長老。第一副会長島田兄弟。第二副会長が河野兄弟。書記大杉姉妹。初等会長細川姉妹。第一副会長島森姉妹。第二副会長島崎道姉妹。書記島崎かず姉妹。MIA会長安田兄弟。第一副会長阿保兄弟。第二副会長森姉妹。書記阿保兄弟。扶助協会々長平田姉妹。第一副会長福原姉妹。第二副会長平沢姉妹。書記白井姉妹。ブライマリー会長柴田姉妹。第一副会長白

井姉妹。尚八月に阿保兄弟はアロン神権を与えられ執事に望任さる。仙台の上野兄弟当支部訪問強い証詞と系図委員会の話に誠に感謝す。(河野敏幸)

新潟県大会報告

○七月二十一日、三支部合同一昨年の大火によつて見る影もない廃きよと化した新潟市の中心街 一時は絶望の悲嘆にくれはしたが、思い直して力強く立上り決して希望を捨てることのなかつた人々の汗の結晶が、今日、近代建築の居並ぶ新らしい中心街として、にその姿を現わしたのである。その中真中、中でもその白い美しさの故にひとときわ目出つ新潟ドレメの三階を会場に、かつては迫害でドン底の苦しみをなめ、しかも希望を捨てることなく遂に今日の隆盛と云う結晶をみた末日聖徒が神の名を讃えこゝに集つたのである。

七月二十一日午前九時の開会に遅れまいと朝早く家を出る汽車にゆられてはるばる京都の南からそして東から訪れた三条支部、新発田支部の人々が、本部より迎えたアンドラス伝道部長御夫妻を中心として懐かしい再会とお互いの健康を喜びあつた。七月二十一日午前九時に神権会、扶助協会を皮切りに県大会は静かに幕を開いたのである。

一、神権会 中野久兵衛
新潟県内三支部合同の大会最初の会合として午前九時より神権会と扶助協会が開催され

た。三支部から集まつた神権者及び男子会員求道者合計十六人。管理者は伝道部長、テルフォード長老、三人の神権者からそれぞれ次の順序で神権に関する有意義な話を聞いた。第一は新発田支部の中学三年の兄弟「何故我々は神権を得ようとするか」と云う題で力強い話をした。

次にホール長老は神権について「天国の力」と題して力強く出席者に訴えた。

最後にアンドラス伝道部長は、何時もの胸の底から出る様な強い声と調子で、黒板に神と御子と聖霊について、漢字で説明を書きながら、神会の統一と神の御力の完全さについて述べられ意義ある一時間を終つた。

二、扶助協会 加藤猶子

フランセス・ピ・アンドラス姉妹は、結婚をなさる前にパーカー姉妹として今から七年前に新潟県新発田で伝道なさいました。アンドラス姉妹は私達にとりましても特別懐しい姉妹でいらつしやいます。此のアンドラス姉妹を管理者にお迎えし、南城姉妹がわざわざ東京からオルガンを弾く為に出席して下さいました。

会は朝の九時から十時迄で、加藤猶子姉妹(新潟)昆悦子姉妹(新発田)アンドラス姉妹の順で有意義な話を伺いました。

三、一般大会 早川達子

一般大会は十時卅分開会、先づ讚美歌八十二番を歌つて末日聖徒の集いであると云う雰

囲氣を会場一杯にみなぎらせた。

お話のトップを切つたのはもと宣教師として本県で伝道したことのあるアンドラス姉妹なので、新発田支部の古い会員達は懐かしそうに耳を傾けて居つた。後「信仰」について新発田支部の今井姉妹、「悔い改め」と云う題で三条支部の能倉兄弟、「バプテスマ」について新潟支部の吉田兄弟と続き最後にアンドラス伝道部長でクライマックスに達した。



そのユーモアを混えた巧みな話術で神の子としての会員のなすべき責任と現世の目的について力説され並居る七十名の聴家を完全に魅了した。かくて正午過ぎ有意義な一般大会の幕を閉じた。

会員は会員なりに「信仰」「悔い改め」「バプテスマ」の原則を再認識し、求道者は求道者として胸の焔に福音の種を宿し「完全な愛は人が怠らず熱心に祈る事によつて全ての聖徒らが神と共に住める終りの日迄人の胸に宿るのである。」と云う聖句を強く脳裏に印象づけたのであつた。午後は聖餐式に引続く証詞会で会員たちの熱烈な証詞がたてられ、清純な雰囲気下に意義深い県大会は幕を閉じた。(上の写真は新潟県大会記念撮影)

岡町支部の動き

○・・・七月から九月まで
海水浴 七月十三日教会の前から専用バスを借り切つて南海二色浜へ出かけました。往復中やかに楽しい一日を送つた。

支部大会 二十、二十一日フーバー長老の管理下に開かる。岡町支部になつてから新会員二十七名、いずれも熱心に研究されている。この日出席総教員七十余名、盛会であつた。宣教師異動 佐々木姉妹は福岡支部へ、その後任としてクルック姉妹二十九日本部から来任さる。

神権授与 上野山兄弟は八月十一日テロン

神権を授与され執事に按手聖任さる。

バプテスマ 進藤富美子 岡本あき子
山田喜久雄 曾根清 和田和子 長井芳子
片山淳子の二兄弟三姉妹が北摂箕面山の清流で誕生す。

来訪と区域制定 八月十八日は「友人を誘う日」であつたが盛会、横浜支部から田中照雄兄弟の訪問を受く。またこの日地方部長フーバー長老から来る九月一日より教会の管理区域制定されるため当支部から桂、中筋、田中兄弟等八名が阿倍野支部へ転ぜられる旨発表さる。よつて二十五日の夜阿倍野支部へ行かれるため送別晩餐会を開いて名残りを惜しんだ。

新会員と神権 阿倍野支部から安芸宏、植村茂夫、細田泉兄弟が九月一日から当支部会員として出席さる。なお細田兄弟はアロン神権を授けられ執事に按手聖任された。

支部役員の任命 会員の異動があつた結果支部組織の役員のうち次の兄弟姉妹が新たに頭書の職務を担当することとなりそれぞれ聖任された。

第一副支部長 安 芸 宏
日曜学校会長 植 村 茂 夫
会員の級教師 植 村 茂 夫
副書記 長 野 昌 子

求道者の級教師 阪 本 弘
子供の日曜学校教師 上野山恵美子
子供の日曜学校教師 吉 田 睦 美

MIA 求道者の級教師 山田 喜巧雄
扶助協会第一副会長 田添 晶子
同 第二副会長 初山 淳子
同 神学部教師 北岡 みづほ
同 仕事会教師 岡本 あき子
(会長は先月聖任され今井富子姉妹。書記は未定)

系図委員会(新設)
会長 阪本 弘
第一副会長 阪本 晴子
第二副会長 阪本 幾代
フオークダンス・パーティー

九月七日は折柄の第十号台風来の予定時刻で大風雨の中にもかかわらず六十余名の出席で盛会を極め、建築資金獲得の目的を達し得たことを感謝する。(阪本 幾代)

室蘭支部の便り

映画の夕 七月廿六・七日 教会建設資金
捻出の為め清水ヶ丘高校の体育館で映画の夕を催す。「血やり富士」「山河遙かなり」の名画と各兄弟姉妹の協力により多数の参観者で盛会であつた。収益三萬六千円

佐藤功兄弟及び藤木義憲兄弟がアロン神権の執事に聖任され、鈴木正治兄弟は教師に按手聖任さる。

バプテスマ 七月十四日川崎英三兄弟が誕生し八月四日には三人のお子さんのお父さんで当支部最年長者である石井正道兄弟誕生す、

これによつて支部も一層力強くなる事でしょう。

宣教師異動 八月十日にホツプ長老当支部に來任され、翌十一月にはアステル長老の送別会を教会で行う。

スポーツの夕 MIA主催で二十一日清水ヶ丘校体育館に行う。バスケット、ピンポン等活気溢れるプレーで一汗流し楽しい時を過ごし帰途は夕風にはくをなでられ爽快であつた。

八月の山形支部

宣教師敬送会 ブラック長老が福岡支部に転任になりましたので十二日送別会を宣教師宅で開きました。

蔵王登山 MIAの主催で八月十六日蔵王登山を致しました。山ろくのパンガローに泊、朝未明のうちに登山し、山頂で夜明けをむかえ美しい雲海の中から出る太陽を見る事が出来ました。お天気に恵まれ、楽しい二日間を過ぎました。参加者は長老外十名。

バプテスマ この月は庄司建朗、龍沢とみ高橋愛子の兄弟姉妹が新に生れました

(草壁 園子)

東京北支部より

八月から日曜学校の集会場が目白駅近くの目白洋裁学園(豊島区雑司谷七の一七)に変更したが宣教師の熱心な活動により最近では会員二十名余、求道者十名余と毎日曜日三

十余名の来合者を見るようになり、会員一同心から感謝しつつ人々を迎えています。九月なつてから島田あや子、野中泰子と二人の姉妹が誕生したのもわが支部への神の恵みによるものと考えられます。支部予算補追のため毎月一回催している「たべよう会」も回を重ねることに好調に進んでいるのもまことに嬉しい。十月五、六日の中央地方部大会が終了したら支部として教会堂建築資金獲得のため新企画を実行に移したいと話合つて居ります。

東京南支部より

✓昨年十一月十一日支部が発足して最初の日曜学校が開かれ七人の人が出席されました。此の時はまだ集会の場所も決らず宣教師の家で支部の歴史の一頁が開かれました。次の日曜日十八日は集会の場所も支部の組織も決められ支部長にジョセフ・ユダール長老が選ばれました。九月までの主なる活動状況は次の通りです。

一月十五日 ワールベック長老東京西支部へ転任、フォックス長老來任。

二月六日 第一回スキヤキパーティーを催す。

三月二日 バプテスマ 吉田まり子姉妹誕生 八日結婚式。青木あや子姉妹と滑川秀二兄弟の結婚式は東京中央支部教会に於てアンドラス伝道部長管理のもとに行われた。二十四日。支部大会

四月六日 第二回スキヤキパーティー

五月八日 バプテスマ、石渡利康兄弟。十

一日 建設資金獲得ダンスパーティー

六月一日 建設資金獲得音楽会東京各支部合同バラエティショー。十

一日 支部最初の扶助協会が開かる。

会長は柴山愛子姉妹。十八日 阿倍

野支部より遠藤長老来任。二十日

ユダール長老送別パーティー。二十一

日 横浜にユダール長老を送る。

七月二十五日 開拓者パーティー（

支部資金を得るための食事会とする）

八月九、十日。支部レクリエーシ

ョンとして秋川けい谷に行く参加者

十名十一日仙台に転任するフオクタ

ス長老を送る夕べを開く。十七日バ

プテスマ、葛生ツル姉妹誕生。二十四

日小樽支部よりダールヘル長老

を迎える。三十一日 バプテスマ佐

菊子姉妹誕生。

九月七日 扶助協会主催食事パ

ーティーが開かれ楽しい一時を過す。

大会とキャンプ

名古屋支部

MIA 授賞晩餐会（六月二十日）

授賞者は日坂遊兄弟と柳田聡子、八

木沼慶子、近藤、野田、松浦姉妹の

六名で賞状とバッヂとを受けました。

又柳田、野田両姉妹により野菜サラダサ

イツチを作つていただき共に会食し楽しい一



名古屋支部大会記念撮影

バプテスマ（六月十三日）犬山の木曾川の

清流にて古堅宗方、中島美江子、葉

賀榮の三名の方達は、ビーマン、グロ

ック両長老より洗礼を受けられました。

三名の新しい会員を又こゝに迎

える事の出来ました事を心より感謝

しております。

支部大会（七月十三、十四日）M

IAは十三日フーバー地方部長の管

理下、松浦姉妹司会により演劇部と

音楽部のそれぞれの発表がありました。

翌十四日には神権会扶助協会は九時より

十時迄、一般大会、柳田兄弟司会に

より主題は「教義と聖約」第八十八

章百二十四節より百二十節（怠惰な

るを止めよ、不潔なるを止めよ、互

に欠点を探すを止めよ、度を過ぎて

眼るを止めよ、早く臥床に入りて疲

れを休めよ、朝は早く起きて汝の肉

体と精神とを活気づけよ。汝ら何よ

りもまず外とうの如く愛のきずなを

もて身に纏うべし、そは完きと平和

のきづななり。わが来るまで気落ち

せぬ様に常に祈れ、見よ、みよ、わ

が速に來りて汝らをわれに受入るべ

し。アーメン）

主題については本島姉妹、柳田征

夫兄弟と成田兄弟により有意義なお話、又フ

夜を待つ事が出来ました。出席者二十八名。

「バー長老より『家庭の愛』について、本當にすばらしいお話を聞きました。次いで証詞会はビーマン長老司会により一時より三時五〇分迄各会員の強い証詞を聞く事が出来まし

た。
フアイアサイドは日坂遜兄弟司会により六時より八時三〇分迄、考古学より見たるセルモン経について松浦姉妹、ビーマン長老、柳田兄弟の話があり、又ビーマン長老の説明によりメキシコ、南アメリカの遺跡のスライドを見せていただきました。

開拓者記念日 七月二十五日は雨降りでしたがアメリカの会員の御好意により、我々支部の者達は彼等よりホットドック、ケーキ、ジュースとを頂き、我々はお客様として多くの食物を頂き、記念日としての楽しい一夜を持ちました。

キャンプにたてしな高原に八月十四日の夜行で名古屋を出発し、十七日の夜名古屋に帰つて参りました。参加者は長老二人を合せて十三名。たてしな湖の附近のバンガローを借り、三日間信州の地にて楽しいキャンプを過しました。又十六日には、たてしな山に全員登山致しました。
(松浦美代子記)

金沢支部だより

スポーツの夕べ(八月三十一日) 日中は三十五度以上の暑さでしたが、MIAの特別プ

ログラムとして六時三十分開会、ビンボンバドミントンにと暑さも忘れスポーツにうち興じ八時三十分閉会致しました。(二十四名)

建てよう会(三十一日) キラワノ姉妹の司会によるゲームはとても楽しくなごやかな集りでした。(二十三名)

証詞会(九月一日) 愛するアンドラス伝道部長をお迎えし、聖餐式と証会とを持ち熱心な求道者方もまじえ最後まで霊的に満ちた集りであつた。(二十八名)

送別会(七日) 堀上タマル兄弟と御結婚なさつた野田一恵姉妹がハワイに行かれる事になり、キラワノ姉妹の司会で「堀上姉妹と語る会」をもちました。伝道、支部の為にと数多く働いて下さつた事を心より感謝し幸多い御家庭をお作りになられる事を信じ堀上姉妹の健康を祈りつつ。(十七名)

聖餐式(九日) 閉鎖になつた小松支部より四人の熱心な兄弟姉妹をお迎えし共に聖餐をいただきました。(二十七名)

各支部の活動状況 (四百字詰三枚位)

証詞 (同 二枚位)

各支部の集会、証詞の筆者の写真等 (毎月十五日まで)

送り先 浦和市岸町八の一 四

高木 富五郎 宛

中央支部の日曜学校

理想に一步前進

東京中央支部は昨年十一月に発足してまだ一年に満たない歴史の浅い支部である。旧第一支部と第二支部の寄合世帯に、地方からの上京組、今年三十名近い改宗者を加えて計百三十八名になつた。

また、日曜学校の発展も会員の増加に比例しこの所急に進歩した。

この程新しく、若く有能な学徒達による会長会が組織された。その会長のもとに帰還宣教師を四名含む、五人の大人の先生が選ばれた。十二才から十七才の求道者と信者のクラス13の先生が姉妹の帰還宣教師で他は神権者である。子供の日曜学校は未経験の姉妹達が選ばれたが、強い信仰によつてその職を全うしている。

六月に図書持ち寄り、日曜学校を計画、その結果数百の図書が集まり、すでに七月から一般貸出しを始めている。視覚教材が今整理中であるが、これが終れば本當の図書館としての機能を發揮するであらう。図書委員の大塚美保子姉妹は図書館学を専門に勉強。

すでに四回と回数を重ねたテイチャー・トレニングは、シャムウェイ長老を先生に迎えて月一度先生達は教授法を学んでいる。

会長は早川喜春兄弟、第一副会長は武川忠義兄弟、第二副会長は山田義郎兄弟。

信仰と

証詞

幸せを感謝する

東京中央支部 倉田和子

私は小さい時本当に想像に絶するきかない子でした。男の子同様に身体のだこかに必ず傷を作っていてほう帯をまいていたものでした。

十才位になつたある時のこと、母からえんえんと話を聞かされ又母は最後に「お母さんが和子を叱る時はとつても悲しくてあなたをたゞいて教えなくてはならない時は胸が痛むのよ」と云われたのです。さすがの私もこの時はすつかり考えこんでしまいました。そして断然素晴らしい親孝行ない子になろうと決心したのです。母を愛し母の為にいい子になろうと努力を始めた時に、それがそんなに難かしいことではなく、そうすることがどんなに氣持のよいかを心から悟つたのでした。私の性格も変りました。

学校でも家でも底ぬけの楽家達の一員になりました。毎日何だか楽しくてならなかつたのです。十五、六の頃ある教会を知りました。一、二回も夢中で毎日禮教会に出席しました。でもその中に何か心の中にいつもわだか

まるものがあつて、それがいつしか私を教会から遠ざけました。それから二、三年は唯何となく過ごしてしまつた様な無意味な生活態度の連続でした。そうしてある時に秋元兄弟を通してこの教会を知りました。初めはやはり以前の教会と似た様なものではないかと、あの教会から離れて行く時のたゞらない苦しい氣持をもう一度思い出し積極的に氣持が動きませんでした。しかし長い月日じつと秋元兄弟の生活態度に接している中に何か私は感じ始めました。それはまれにしか見られない程氣持の良い温い家族の中に育つた為かと思つてみました。しかしその他にまだ何かあることを遂に感じ始めました。秋元兄弟はこの様に私の氣持が動いて来た時に、急にもう私がとまどつてしまつた程積極的になんぐんひつぱり出したのです。そしてびつくりする程短い期間に求めているもの、心の中にもやもやしていたものがこの教会の中で完全に解決されてしまつたのを私は知らざるを得ませんでした。



今私はこのこんなした誘惑の多い世の中にあつてそれにまどわされず、真直ぐにこの神の眞の教会に導かれた幸せと感謝と喜びをどういふ言葉でよいか分りません。神様のいましめを守り通すには非常な努力のいることを私は知っています。バプテスマを受け新しい眞白なよこれない人生に一步をふみ入れた今この時に、私はこの長い今日迄の人生におかしたすべての罪を許して下さる神の深い愛にどうしても応えなくてはならないと何かひたすらにその教えいましめに忠実になる様な決心と勇氣と喜びが全身を満たしています。私はへり下り心をけんそんにして喜びや感謝や、苦しみなやみを神さまに祈りに依つてお話しする時にすぐ私の側に神さまがいらして温かい手をのべていて下さる幸せと愛をひしひしとかんじます。

お父さまである神さまを愛することの出来る心とジョセフ・スミスによつて設立されたこの教会に導かれて与えられた感謝と喜びと。神さまが唯一の眞の方でいらつしやると同じ様にジョセフ・スミスに依つて回復されたこの教会が神の眞の教会であることを心よりあかしいたします。アーメン

祈り

室蘭支部 堀内 京子

こゝに記す事が心して読む人にとつて靈の糧とならん事を祈り私の総てを通し神様は確

に存在しイエスはキリストであると証します。コラの子の讚美の中に「そはこの神はいや遠長に我等の神にましまして我等を死るまで導き給わん」と記されている如く、世の初めナダムより今日に至るまでひるがえる事の無い信仰を持つ人々の上に、敵の手より、獅子の爪より、助け出し昼は雲、夜は炎の柱を持つてこれを導き、又ジョセフ・スミスは人の救いの道を開き、神の御業をこの地上に回復した時に、神の力に強く助けられた事を知っています。この限り無い神権の導きと力をいかなる方法を通して得ることが出来るかと言えはそれは祈りであります。これは人が神権の御意にふれるたゞ一つの道であり私達の生活の中に証と祈りと讚美は決して失せてはならないのです。

聖霊の力を通してこの福音と、末日聖徒キリスト教会内にて行われる儀式は永遠の生命に達するものであるとうたがう事なく証する人々は神の働きをなす人々であると忘れてはなりません。祈り無くして神の前に何をもうすべからずと教えられながらも時折この祈りを忘れる時が無いだろうか又神様にたよる心がうすれ行くことがないだろうか？この様な時ほど常よりもひくく神権の力を受ける様に祈らなくてはならないことを知っています。して神権の力を受けた人々は末日聖徒の働きがいかに尊く価値の大なるものかを感じ御業の一端となつて働くことが永遠の喜びとなるこ

とを知るに至るでしょう。

この教会が誠に神の教会で又人を救う力ある事の確かなる証の故に多くの犠牲と血を持つての証と信仰を受けついで私のほころべき末日聖徒が開拓せしこれ等の人々の信仰と証にそうようその働きに正しくある事を望んでやみません。

「エホバに感謝せよエホバは恵深しそのあわれみは永遠に絶ることなければなり」

(ダビデの歌より)

大管長の言葉

「神殿の事業」について

聖徒たちが祖先を救い贖うために、どれ位多くの時間を費しても決して費し過ぎるという事はない。たゞ全教会の聖徒たちが全力をつくして死者を救い、子孫を結び固め、今この世に生きる友人たちを集め、そしてこの世の快樂のために全く己の時間を費さないとしても、彼らは、他の誰れも働くことの出来ない時、則ち、夜の来る前までにこの仕事を終了することは困難であろう。

予言者ジョセフ・スミス

われわれの祖先は、われわれなしに決して完全になり得ない。又われわれも祖先なしに決して完全になり得ない。祖先は、その業をなし終えて、今眠りの中にある。われわれは今この地上で執行される最大の言葉となる答

の事業を行う様召されており、この地上に住み、福音の知識を得ずして死んだところの数多くの人たちも又、永遠の生命（これは福音を受け入れたい気持があれば、受け入れることの出来るものである）を得けられる様に、儀式を受けねばならないのである。

ブリガム ヤング大管長

われわれは、死者（祖先）贖うための大いなる事業をもっている。われわれが探求している道は、諸天の関心の的となつており、靈界にはすでにこの世を去つたジョセフ・スミス、使徒、長老及びその同僚たちによつて福音を説き明かされつゝある人たちがいる。これらの人たちは、彼らの証詞を受け入れるかも知れないが、靈界に於ては、バプテスマを受けることが出来ないのである。何故なら彼らが第一の復活に与り、永遠の生命に与るために、この地上に生きるだれかが彼らのために儀式を執行せねばならないからである。

ウィルフオード・ウツドラツフ大管長

主は召し、説得し、正しく指示を与え智慧と愛と光明とをもて、祝したまい数知れぬ道にて、慈愛と親切とを垂れ給うなれど

決して人の心を強いる御方にあらざるなり、

ウィリアム・クレツグ

小樽支部

住所は？と聞かれると、きまつて「警察本署の斜向うです」と答える。それが一番一般の人々にとって判りやすいのだが、コンクリートのいかめしい警察署の向いにある教会。何となく対象的で意味あり気でもある。

お向いの建物には毎日昼夜をわかつたず国法を犯す者と、それを追う者とがせわしげに出入する。そしてこちらの建物には国法を犯さなくとも「私たちはつみ人です」と謙虚に頭を下げる人々が出入している。

向いの建物に出入する人の中から、否、前のバス通りを通る人の中から、一人でもこの小さな「末日聖徒イエス・キリスト教会」という看板に眼をとめ、両手をひろげて迎える主のみ胸に飛び込んで来る人があるようにと、信者たちは心から祈っているのだ。

この支部は昭和二十五年の夏発足した。割合に早くこの支部が開

かれたのは、昔の信者が一人この小樽に住んでいたためである。そ



小樽支部教会堂

気よく集っていたものであるが、小樽にはついそ支部が出来ずに終ったのであったが、今度は小樽も恵まれて支部が生れ、福音の光に浴する機会を得たのである。

それから五年間、宣教師の住居と集会場のために会員たちは大きな苦勞をした。他の支部でも同じ

ような苦しみを重ねたであろうと思うが、この支部もやはり並大抵の苦勞ではなかつた。しかし当時の信者たちは他の支部にまで有名となるほど団結し、またよく働いたので色々な困難を克服し、宣教師たちの熱意につかまは行かないがよく進歩した。たしかに宣教師たちが素晴らしい方々であったことは幸せであった。

昭和三十年の暮、当時の伝道部長ロバートソン長老の許可で現在の建物を購入することができたのであったが、信者た

ちはこの大いなるお恵みに感激して、建物のなかった頃の苦勞を一本に忘れて喜び合ったものでした。

場所は良し、小樽駅にも近く、市の中央部に位するから交通にも便利である。建坪百七十二坪、部屋数は十三とフロリングが二つあります。庭園は少ないが部屋の改造ができれば二百人位の集会も可能な条件に恵まれている。果してそれがどうなることか？

かつて地方部大会の時、伝道部長さんが「建物のない旭川支部は恵まれています」と言われたが、小樽支部は建物が有りながら、この建物は普通の住宅として建てられたものだから現在のところ大きな集会（たとえば地方部大会のような）は出来ない。またMIAのための大きな催しが出来ないという悩みがある。それに今一つは戸外での集会をするにふさわしい庭がない。残念ながら献堂式もまだであるし、内部の改造も考えねばならず、それに若し庭のある適当な建物を見つけたらとの気もある。さらにまた他に好適な土地を購入して会堂を新築という考もあって、すべて信者たちの団結と信仰によ

って解決さるべき多くの問題が前途に横たわっている現状にある、

現在の会員数は三十九名、つまり十一人の兄弟と二十八人の姉妹たちであるが、神権保持者が今のところ僅かに五名で、神権者の少ないことが当支部の最大の悩みで、教師一名、執事一名だけが活動している現状である、だから姉妹たちの願いは「神権者を求む」の希望につきています。こんな訳で活動している信者たちはあまりに数多くの責任を持たなければならぬのでこれに問題の一つである。現に責任の分担は次の如くである。

○日曜学校

長 サーマス長老

第一副会長 伊藤兄弟

第二副会長 小林兄弟

書記 那須さん

音楽指揮 岸上 姉妹

教師 岸上、柳原、田中各姉妹

○ジュニア日曜学校

教師 加藤、岸上、石尾各姉妹

○M.I.A

会長 小林兄弟

第一副会長 田中 姉妹

第二副会長 けん持 兄弟

証 斉藤さん

師 小林(克)、池田、

会 〇扶助協会

小

林克姉妹



活

動

佐々木各姉妹
けん持、岸上

(写真は小樽支部一同)

小樽という所は起伏の多い街だ、だから電車も出来ず交通機関はバス一点張りである。従って宣教師たちも自転車で伝道に廻れないのでその坂道をとほで登ったり下ったりしているのが大抵な苦勞ではない。それでも宣教師たちは元気で家庭訪問に街頭伝道にふんとうして居られる。この支部は昔から男の人たちは非常におとなしく、久しい間役員

や教師は姉妹たちばかりであったが、当時の姉妹たちは今では三人しか残っていない。かつては一年に十人以上も信者になったという思い出を古い信者たちは追憶して新しい信者たちと協力して支部の危機を乗り切るのだと頑張っている。それは勿論信者たちの信仰によって出来ることであり、この支部がそうした素質を多分に持っていること信じて疑わない。

(次回は札幌支部)

編集言

*全世界で改宗して末日聖徒イエスキリスト教会の会員たるべくバプテスマを受けた人は昨年二万二千人であつたが、今年は一萬五千人を超えろと言われている。

*まことの福音が如何に人類に渴仰されているかはこれだけでも証明されます。

*わが国の受持つ分はその何パーセントか？これは私たちの信仰のバロメーターでもあります。

*ピーター・ソン姉妹の名著「モルモン終物語」を今月より連載致します。御愛読下さい。

若き末日聖徒の為の

モルモン經物語

エマ・マ・ピーターソン

訳 雄 正 部 渡

画 江 正 山 石

第一章 約束の地

(創世記六、九、イテル書一)

アメリカの土地は天主さまに大
変可愛がられました。天主さまは
永い間昔からアメリカの土地を約
束の地とお呼びになりそれは世界
中で一ばん恵まれた土地であると
申されました。

ノアが洪水の前に船を造ったの
は此の西半球でありました。ノア
は近所の人々に百二十年の間若し
人々が悔改めなければ天主様は洪
水をおこして皆の者をおぼれ死な

せてしまふであらうと説きました。

彼等は悔改めませんでしたので
天主様はノアに彼が造った船に彼
の家族とすべての獣や草木の種子
を持って入るようにお告げになり

ました。彼がその通りにしますと
洪水が始まりました。四十日間雨
が降りつゞき溜りや泉がはらん
しました。間もなく一番高い山の
頂上も水にかくれてしまいました。

ノアと一緒に船に乗った人も除い
て地上のすべての人や獣がおぼれ
死んでしまいました。

船は五ヶ月間水の上に浮ん
で約、地球の半まわり程流
れて行きました。そして最
後にアレクサンドリアのアララテ
と言う高い山の頂上に着き
ました。三ヶ月後に水が減
って山々の頂上が見え始め
ました。それから四ヶ月た
たないうちにノアとその家
族や獣たちは船を出ること
が出来ました。ノアと彼の
妻は「セム」「ハム」「ヤ
ベテ」の三人の息子を持ち
その三人の息子の妻たちも
彼等と共に船に居りました。
洪水が止むと彼等は再び地
上の生活を始め彼等

子供が生れ始めました。家族がだ
んだん多くなると彼等は地上に拡
がって村々や小さな町をつくりま
した。

何十年かたつと人々はどんど
増えて多数になりました。彼等は
働いて都市を造り耕地を耕し大変
富み榮えて来ました。そうすると
彼等の内の或者達は又悪くなり始
めました。

或一団の者は大きな都市を建て
てその中に天にも届くような高い
塔を建てようと決議しました。こ
の事は天主様が大変不愉快にさせま
した。天主様は人々が塔を建てて
いる処に降りて来て人々がお互に
何を言っているのかわからないよ
うにする為言葉を乱してしまわれ
ました。彼等は皆それぞれ異った
言葉を語るので塔を建てることを
中止してしまいました。彼等の大
部分がその家族を伴って他の地方
に移りそれぞれ彼等の故郷としま
した。

此の時その塔の附近にジェレド
という義人が住んで居ました。彼
は大きなそして大変強い兄弟を持
って居りましたがその兄弟は非常
に信仰深かったので天主様から大
変可愛がられました。ジェレドは



彼の兄弟に彼等の家族の言葉が乱されないように祈るように告げました。兄弟がその通りすると天主様は聞いて彼の祈りに答えられました。

ジェレドはその兄弟を再び天主様のもとに遣わして多くの者がその言葉を乱されてから方々に散って行ったがジェレド達はどの方角に行ったらよいのかたずねさせました。若し彼等はそこを去らなければならぬとしたらどちらに行ったらよいのでしょうか？ 彼は彼の兄弟に言いました。「天主様を除いて誰が私達を地上で最も好い土地に運ぶことが出来ましようか？ 若しそうだとしたら私達は天主様に忠実にして私達の住る地としてよい土地をもらいましょう」ジェレドの兄弟はジェレドに頼まれた通り天主様の処に行きました。天主様は彼の祈りを聞いてジェレドとその兄弟及び彼等の家族達を祝福しジェレドの望みをかなえて彼等を地上で最も好い処に送りました。そこはノアが洪水の前に住んでいた処でそれから天主様を信じ天主様に仕える人の為に天主様によって定められた土地、即ちアメリカであります。

ジェレドの兄弟がお祈りを終えたと天主様は彼に言われました。

集め又お前の家族ジェレドの家族又お前達の友達の家を呼び



「さあ行ってお前の持っているすべての家畜やすべての種子を

集めお前がその先頭に立って北方の谷間に向って行け。そこで

私はお前を迎えて世界で一番よい土地に導くであろう」天主様は彼等に約束して次のように言われました。

「そしてそこで私はお前達及びお前等の子孫を祝福しお前等の永いお祈りに答えてお前達を全地上に繁栄させるであろう。」天主様は彼等をアメリカに連れて行くように計画されました。

第二章 旅行は始まる

(イテル書二)

ジェレドの兄弟はジェレドと彼等の友達に天主様が命ぜられたことを告げました。彼等は直ちに彼等の家畜を集め始めました。いろいろの種類の鳥を捕える為にわながかけられました。彼等はその鳥類をもたずさえて行こうとしました。彼等は又魚類を捕えて旅行中生かしておく為に、水の容器に入れました。彼等は又デゼレツと呼んでいる蜂の群をも集めました。今日私達も彼等にならってデゼレツトと言う言葉を使って居ります。彼等は又すべての草木の種子をも集めました。

彼等の準備が出来るとジェレドの兄弟は、神さまに言われた通り彼等を北の方の谷間に導いて行き

ました。そこは名高い狩人のニムロデの名をつけてニムロデと言いました。

彼等が谷間に着くと天主様が約束した通り降りて来て彼等を迎えました。天主様はジェレドの兄弟と話しをされましたがその顔は見られないように雲で覆われて居りました。天主様は彼等にもっと遠くまだ誰も行った事のない荒野に行くようにお命じになりました。天主様自ら彼等と共に歩いて彼等を導きました。

天主様は人々に見られないように雲の中に残りましたが彼等の旅行の方向を示しました。

荒野を旅した後彼等は海岸に到着しました。人々や彼等の家畜やその他のいろいろの種子を運ぶのに八艘の船が必要でした。彼等は荒野の海岸に四ヶ年の間住みました。天主様は何時迄も彼等に訪れ彼等に語りました。天主様は彼等を伴って行く約束の地に就て語りそこは常にそこに住む義人にとって自由の土地となるであろうとお告げになりました。けれども天主様は若し人々が悪くなったら彼等を滅ぼすであろうと言いました。天主

様は、若し此のよい土地に住む人々が天主さまに仕えるなら彼等は決して捕虜になつたり奴隷になつたりする事がないであろうと約束されましたこれは大きな約束でありました。

ジェレドの民は荒野に居る四ヶ年の間天幕に住みました。彼等は其処に居る間に天主様を忘れジェレドの兄弟も又忘れて、以前のようにお祈りをしませんでした。この事は天主様を怒らせました。或日天主様が天より降ってジェレドの兄弟の前に立ちました。天主様は又もや見られないように雲につつまれて居りました。

天主様はジェレドの兄弟がお祈りを忘れた事を三時間にわたってお叱りになりました。

ジェレドの兄弟は大変すまなく思つて許しを乞いました。天主様は言われました。「私はお前とお前の兄弟の罪を許してやろう。けれども二度と罪を犯してはいけません。お前は私が決して好んで人を苦しめるものでない事を知っているであらう」と。

ジェレドの兄弟も又悪人になつたら天主様の前から追出され天主様は二度と彼を訪問しないであらうと告げられました。

ジェレドの兄弟は深く悔改めて天主様に対し心から助けとお導きをお祈りしました。天主様は彼等をお許しして彼等が海を越えて約束の地に渡れるようにどのようにして船を造つたらよいかを教えられました。船は小さくて軽く甲板も底もひらたく皿のようで水に浮び波をかぶつても洩らないようになっていました。その船は丁度大きな木のように先が尖っていました。

船が出来上がつてすべての戸を開めた時ジェレドの兄弟は船の中が何も見る事が出来ない程真暗である事に気がつきました。彼はこんな真暗でどうして海を越える事が出来るであろうかと心配して天主様の許に行つて祈つて言いました。

「おお天主様、私は貴方の御命令を守り貴方の言はれた通りに船を造りました。けれども天主様見て下さい船の中には光がありません。私達はどちらにかじをとつたらよいのでしょうか？」

そして又私達は船の中の空気が死んでしまふことが出来ないなら天主様は各船に穴をあけて新鮮な

空気を入れるようにお告げになりました。船が水の中にもぐつた時に人々を守るように穴にふたを造りました。けれどもまだその中には光がなかったので彼等は再び助けを求めて祈りました。

天主様は彼等に海を渡る時、或時は丁度今日の船のように水面を走らせるが又他の場合は水中にもぐらせねばならぬとお告げになりました。彼は言われました。「お前達は毎の中で鯨のようになるであらう」

彼はジェレドの兄弟に彼がどのようなにして光を与えようとしてゐるかをたずねて言いました。

「お前は窓を造ることは出来ない。それはこわされるから。又火の光を中に入れて行く事も出来ない。もしたらお前は海の中にもぐる時どのようなにして光を持ちたいか、私にどのようなに準備してもらいたいのか？」と。

第三章 天主さまは

姿を現わし給う

(イテル書第三章)

天主様はジェレドの兄弟がどのようなにして船の中を明るくしてほしいか告げてもらいたいとお思ひになりました。この事を

知った予言者は岡に行つてそこに或るガラスのようなすき透つた石を見つけた。彼はその石を十六の薄片に切つて分けました。それを持つて彼は高い山の頂上によ

じ登りお祈りし始めました。彼は天様に彼の弱い事をお叱りにならないように頼みジエレドのすべての人々を恵むよう又特に今海に旅立たんとしている人々をあわれむようお祈りを致しました。彼は再び天様に彼等が暗黒の中を旅したくない事を告げて次のように言いました。

「ごらん下さい。これらは私が岩からとちしてこしらえたものです。天主様、私は貴方が人々の為になる事なら何事でもなさろうとする力を持つて居られることを知つて居ります。ですからどうぞ天主様、貴方の指をこれらの石にふれてそれが暗黒の中で光るように私達が海を渡る時に明りを持つことが出来ますよう私達が造つた船の中でその石が光るようにして下さい」と。

ジエレドの兄弟がお祈りを終えたと天主様は手をのびされ、その指を一つ一つの石におふれになりました。

「同じような天主様の指を見て大變驚きました。彼は恐れて地上にひれふしました。天主様は言われました。『起きなさい。なぜお前はたおれてしまったのか?』驚き恐れた予言者は答えました。

「私はまだ天主様が血肉を持つて居られることを知らなかった。天主様の指を見て打たれるのではないかと恐れました。ジエレドの兄弟に語つた天主様は、後にユダヤの乙女のマリヤに生れて此の地上に現れ、十字架にかゝつて死なれるであらうところのイエスさまでありました。彼がジエレドの兄弟にお現われになった時は丁度私達が此の世に生れて来る以前に靈であつたと同じように靈でありました。そこで彼はジエレドの兄弟に向つて次の様に云われました。

「お前は信仰深いので私が血肉を掬つてであらうことを見た。今迄お前程信仰深い人が私の処に來たことがない。若しそうでないならお前は私の指を見ることが出来なかつたであらう。お前は此の指より、もっと多く見た

事があるか?」予言者は言いました。「いいえ、天主さまどうぞ貴方のお姿をお現わして下さい」天主様は言われました。

「お前は私が今から語ることを信じますか?」ジエレドの兄弟は言いました。

「はい天主様私は貴方がほんとの事を語ることを知つて居ります。なぜなら貴方はほんとの神様で、それをつく事が出来ませんから」

そこで天主さまは予言者にそのお姿をお現わしになりました。そして彼は言われました。

「私はイエス・キリストです。お前は私の形と同じようにつくられた事がわかるか? すべての人々が始めに私の形にみならつて造られたのである。今お前が見る此の私の体は靈の体である。私は此の私の靈の体に似せて人々を造つたのである。私は今靈によつてお前に現われたが将来肉体を以て人々に現われるであらう」。

これはジエレドの兄弟にとつて素晴らしい経験でありました。天主様は彼に此の事を書くように言わ

れましたがその記録は何百年かの後イエスさまが肉体でお現われになる時迄、人に見せないようにお告げになりました。

天主様はその石の二つをジエレドの兄弟に与えてその記録と共に保存するように告げられました。これ等の石はその時よりずっと後の世に住むであらう予言者に此の大なる経験を讀ませる助けとなりました。

ジエレドはそれを自分の言語で記録するの他の予言者は後の時代の異つた言語で讀むでしようから。この二つの石は丁度予言者ジョセフ・スミスがモルモン經典を訳す時に用いたウリムとドミムのようなものであります。

それ等はジエレドの兄弟の記録を讀む人の助けとなるであります。

昭和三十三年十月十日発行

定価 拾円

発行人 ボール・C・アンド・ラス

編集人 高木 富五郎

発行所 東京都港区麻布広尾町

末日聖徒イエスキリスト教会

北部 極東伝道部

辞書は三省堂

東京・神田神保町一ノ一
振替 東京 五四三〇〇

三省堂

新撰漢和辞典	音訓 両引き	新小辞林	明解古語辞典	明解国語辞典	辞海 縮刷版	ジエム英和・和英辞典	中学英和新辞典	新クラウン英和辞典	初級コンサイス和英辞典	初級コンサイス英和辞典	コンサイス英英辞典	コンサイス和英辞典	コンサイス英和辞典
七〇〇円	三五〇円	三〇〇円	四八〇円	三八〇円	一、〇〇〇円	特五〇〇円	二五〇円	大四八〇円 四二〇円	特価一五〇円	一七〇円	一〇〇円	四五〇円	三五〇〇円 革四七〇円 三五〇円 革五〇〇円

福音書の日本語版

新訳「モルモン経」(口語体、上製)	二二〇円
新旧約「聖書」(口語体)	二七〇円
新旧約「聖書」(文語体)	二七〇円
◎ 日曜学校用	
万人のよきおとずれ	一〇〇円
古代の使徒	一〇〇円
我等の標準聖典	一〇〇円
霊的成長(子供の日曜学校用)	一〇〇円
音楽指揮の原理	五〇円
新求道者のための福音の根本原則	二五〇円
日曜学校の手引	二五〇円
初等協会用教科書	一五〇円
図書管理者便覧	二五〇円
◎ M I A 用	
信証講義	一九〇円
演劇脚本集	五〇円
役員と指導者の手引	一〇〇円
スクエアダンスとフォークダンス	三〇〇円
スポーツの手引	二五〇円
ゲームとその遊び方	六〇円
◎ 讃美歌	
末日聖徒讃美歌	一九〇円
末日聖徒讃美歌拔萃	三〇円
子等は歌う	一二〇円
(備考) 御注文は宣教師へ	